

市長と語ろう

タウンミーティング

テーマ

新生黒部市のまちづくり

【総合振興計画の策定に向けて】

【開会のあいさつ】

皆様がたには、仕事を終えられてお疲れのところお集まりいただきありがとうございます。

そしてまた、今回のタウンミーティングの開催にあたりまして、地区自治振興会の皆さん、町内会の皆さんには大変お世話をいただきました。心から感謝申し上げたいと思います。

さて、新生「黒部市」として新たな歩みをスタートして約八か月が経とうとしておりますが、ここまでおおむね順調に推移しているものと喜んでおります。

この間、市民の皆さんが不便に感じたり、あるいは、市民サービスの低下を招くことの無いよう努力してきたところであり、今後も、合併メリットを活かしながら、市政運営に努めてまいりたいと思いますので、一層のご理解、ご協力を申し上げます。

合併はゴールではなく、これからが、まちづくりの本番です。

【新市のまちづくりに必要なこと】

市民の一体感の醸成
市民交流促進、事務事業の一元化

市民と行政との協働
役割と責任の分担

開かれた行政の推進
情報の提供・共有 公聴活動の充実

【新市のまちづくりに必要なこと】

今後のまちづくりを進めていくにあたり、大切なことが3つあると考えております。

それは、「市民の一体感の醸成」
「市民と行政との協働」
「開かれた行政の推進」であります。

1点目の市民の一体感の醸成についてでございますが、合併を達成したとはいえ、一朝一夕に旧市民、旧町民の意識がなくなるものではありませんが、これ乗り越えなければならぬと感じております。

今後とも市民同士の交流を促進し、暫定扱いになっている事務事業等の調整に務めるなど、一つの市としての一体感を醸成して参りたいと思っております。

2点目ですが、これからのまちづくりを進める上で常に考えていかなければならないことがあります。

それは市民の皆さんと行政がそれぞれの役割を認め合い、そして、良きパートナーとしてお互いの足りないところを補完し合い、協力し合ってまちづくりを進めなければならない、ということでありませう。

市民の皆さんからの要望や新たな地域課題に対応していくには、行政だけでなく、そのサービスの受け手である住民もその役割と責任を分担し、協働して、解決していくことが求められております。

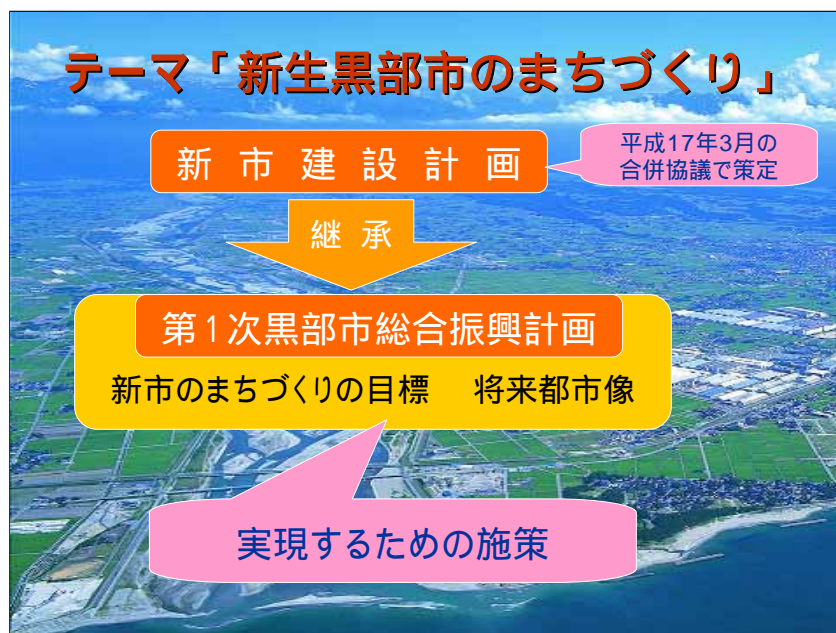
3点目ですが、この協働を進めるには、市民と行政とが同じ視点に立つことが必要であり、そのためには市に関する情報をお互いが共有することが不可欠であります。

市の情報については、毎月の広報、市ホームページ、ケーブルテレビなどで、正確・迅速に、わかりやすく提供していきたいと考えております。

また、市民の皆様からの要望の把握についてもいろいろな手法で積極的に取り組みたいと考えております。

現在、このタウンミーティングや地区要望のほかに、意見箱の設置、市ホームページに相談窓口コーナーを開設してお寄せいただいたご意見に回答し、内容を公表しております。

今後、各審議会委員の公募制度や、各種の計画を決定する前にその案を公表し市民の皆様意見を反映させるパブリックコメント制度を導入するなど、公聴活動を充実し、開かれた行政を推進してまいりたいと思っておりますので、市民の皆様積極的な参加をお願いしたいと思います。



【タウンミーティング本題】

それでは、本題に入りますが、今日のテーマは、新市誕生後初めてということで、新市総合振興計画の策定にむけた「新生黒部市のまちづくり」です。

本日は、一つの市としての視点にたって将来の黒部市について考え、それに向かって、今、この十年に何をすべきか、市の重要な課題について、後ほど考え方を提起させていただきます。

最初に、総合振興計画について少し説明させていただきます。

まず、策定趣旨でございます。

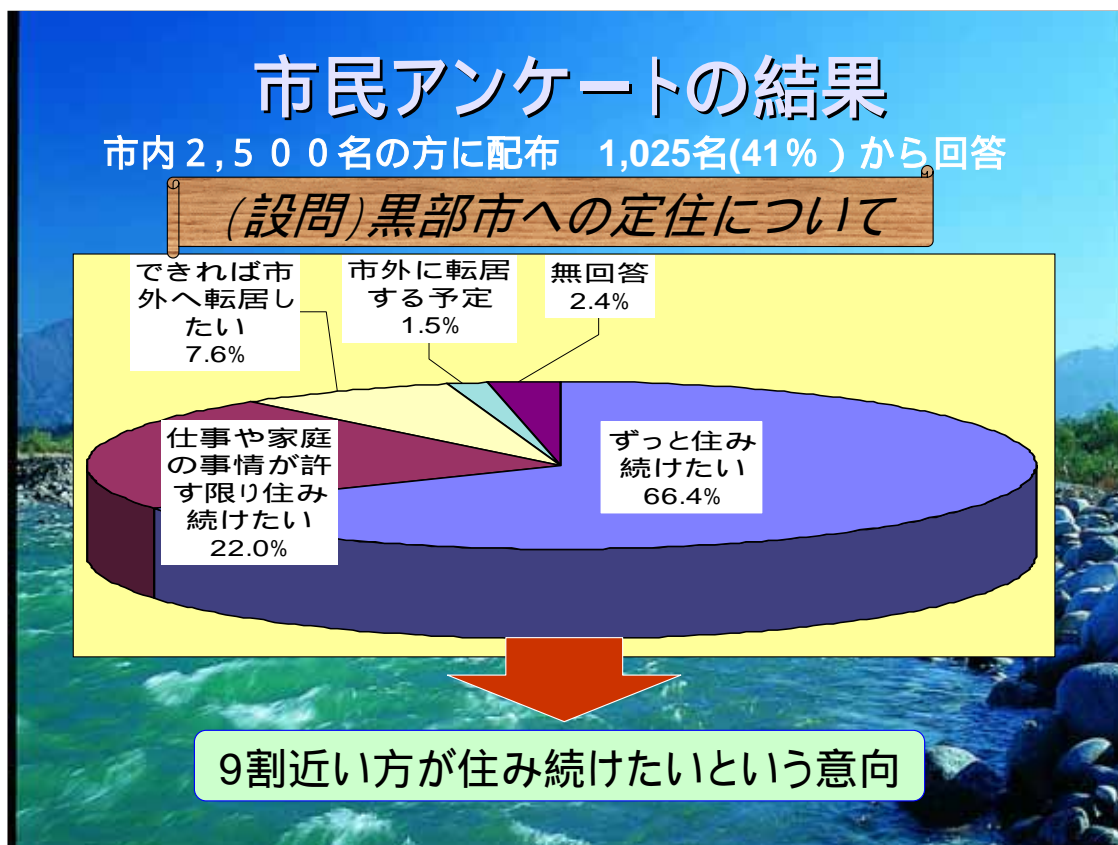
現在、市は、平成十七年三月の合併協議で策定した「新市建設計画」に基づき行政運営を行っていますが、この建設計画を継承しつつ、長期的な視点から新市のまちづくりの目標や将来都市像を示し、これを実現するための施策等を明らかにした「第1次黒部市総合振興計画」を定めることにしております。



次に、総合振興計画の位置づけと構成ですが、この計画は行政運営上の市の最上位計画であり、各分野別の計画の基本となる計画で大変重要な計画です。

この総合振興計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成します。基本構想は計画期間を平成二十年度から二十九年度の十年間、構想に基づく基本計画は、計画期間を平成二十年度からの五年を前期、その後の五年を後期としております。

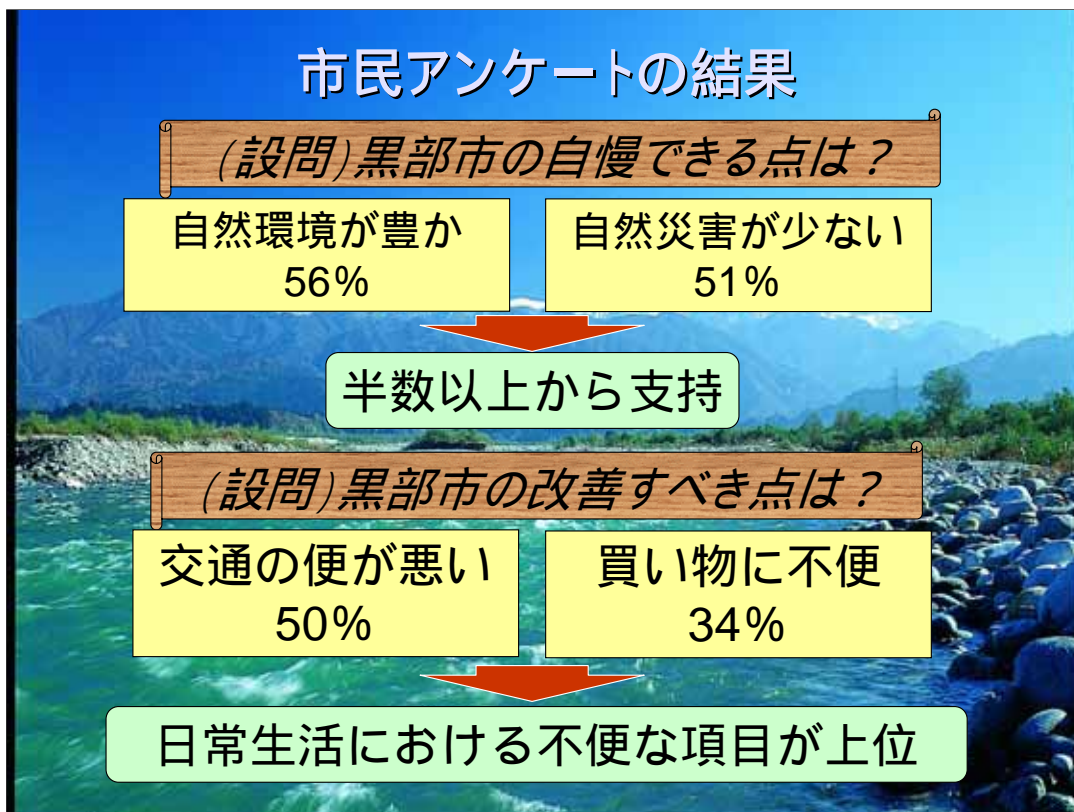
さらに、今回の実施計画では施策の具体的な事業内容を定めることとしており、計画期間を三年としながらも、常に重要性、優先度を考慮して見直しを行い、また、確実な財源の裏付けを基に、実効性の高い計画にしたいと考えております。



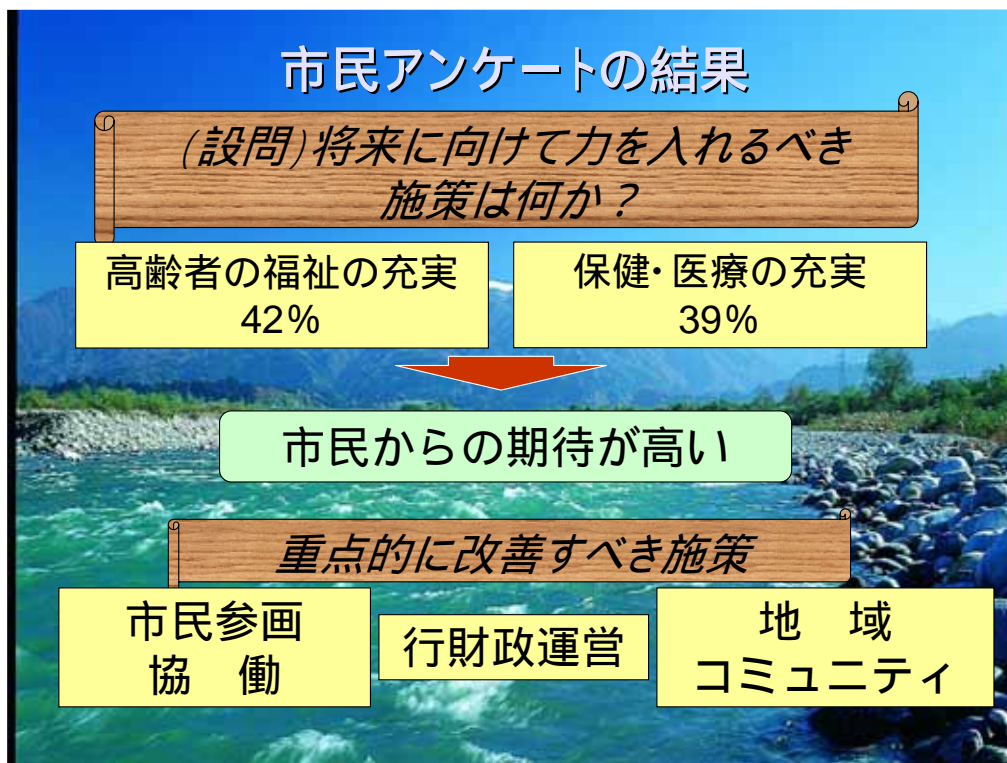
ここで、市民の皆さんの意向を総合振興計画に反映させようということで、7月に実施した市民アンケート結果についてご報告いたします。

市内二千五百人の方に配布し、四十一%、1,025名の方から回答をいただきました。

その結果、将来も黒部市に住みたいかという問いに対して、九割近い方が住みたいと回答され、定住志向の高さが窺え、市政を預かる者として、改めてまちづくりに取り組む責任の重大さを実感いたしました。

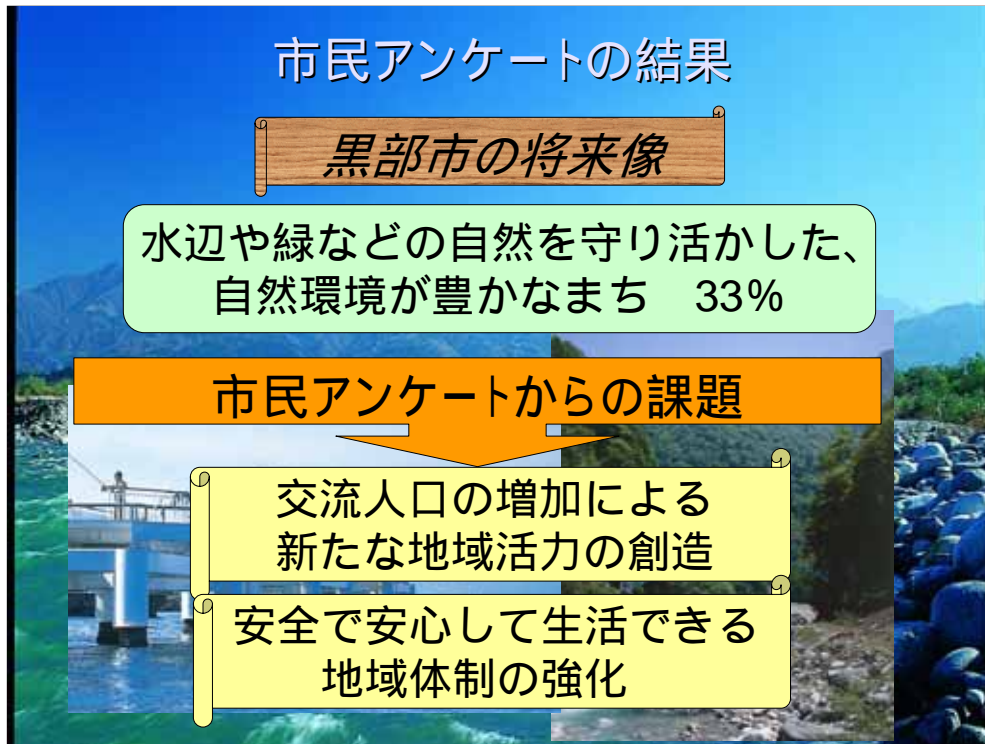


黒部市の自慢できる点では、「自然環境が豊か」「自然災害が少ない」が半数以上から支持され、逆に、改善すべき点では、「交通の便が悪い」「買い物に不便」など日常生活における不便な項目が上位となりました。



また、将来に向けて力を入れるべき施策は何か、という設問に対しては、「高齢者福祉の充実」「保健・医療の充実」が高くなっております。

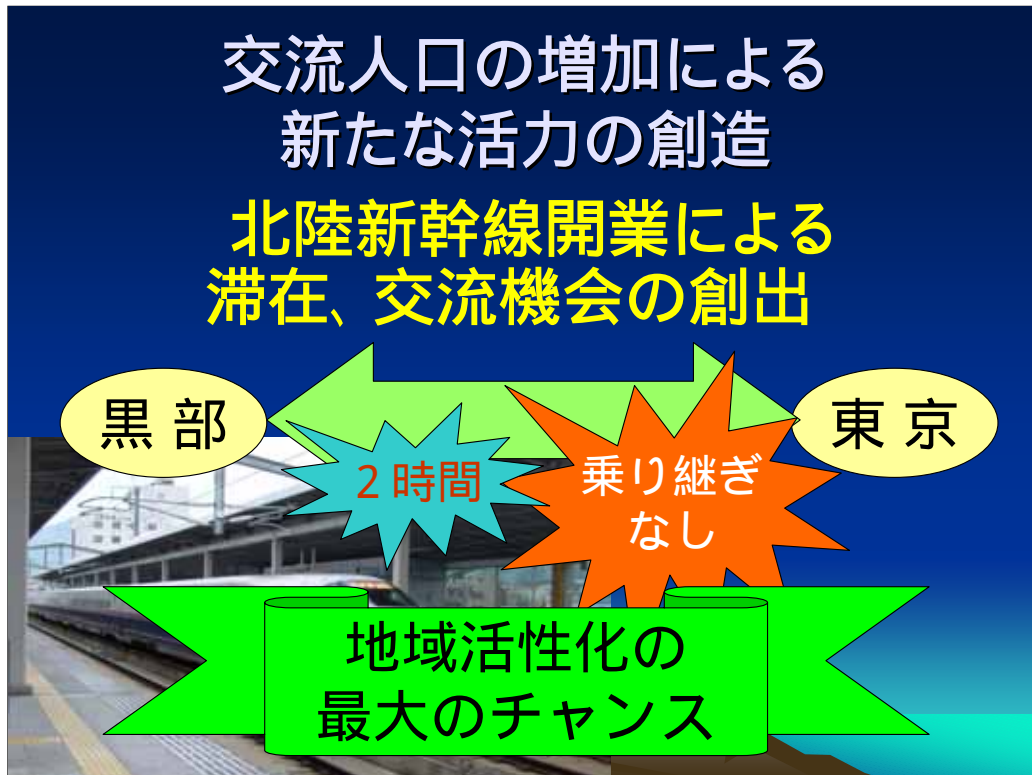
さらに、各施策に対する満足度と重要度を分析したところ、重点的に改善すべき施策として「市民参画・協働」「行財政運営」「地域コミュニティ」が挙げられました。



そして、黒部市の将来像としては、「水辺や緑などの自然を活かした、自然環境が豊かなまち」が支持されています。

この市民アンケートで浮かびあがった課題がいくつかあります。

この内、「交流人口の増加による新たな地域活力の創造」と「安全で安心して生活できる地域体制の強化」の二つの課題に対し、市として、課題解決に向け総合振興計画に盛り込む際、特に検討が必要と考えている項目について提起させていただきますのでよろしくお願いいたします。



はじめに、「交流人口の増加による新たな地域活力の創造」に対する取り組みであります。

この総合振興計画期間の十年間でこの地域に劇的な変化、影響を及ぼすのが平成二十六年末までに完成する北陸新幹線です。

これまで黒部・北陸方面は東京からは「遠い」というイメージがあります。これは実際の距離よりも3時間半かかるという時間的距離のためですが、北陸新幹線が開通することで、乗り継ぎなしの2時間強で結ばれることになれば遠いイメージは解消され、その効果は計り知れないものがあります。

この新幹線の開業により黒部市や新川地域を訪れる観光客やビジネス客が飛躍的に増える可能性があり、この機会を地域活性化の最大のチャンスと捉えて、地域全体の産業、経済、文化をおおきく発展させていきたいと思っております。

交流人口の増加による新たな活力の創造

新駅(仮称:黒部駅) 周辺整備計画の推進

来訪者を魅了する 観光と交流の拠点

見えない駅・魅せる駅

駅前広場・駐車場
多目的広場・交流プラザ
(仮称) 地域観光ギャラリー等を整備

また、北陸新幹線の長野・金沢間の開業が8年後に迫る中、このほど「北陸新幹線新駅周辺整備計画検討委員会」において検討していた「新駅(仮称:黒部駅)周辺整備計画」の答申をいただきました。

この計画はこれまでの住民の意向を踏まえ、県東部及び新川広域圏の玄関口にふさわしい新駅周辺づくり等について策定されたものです。

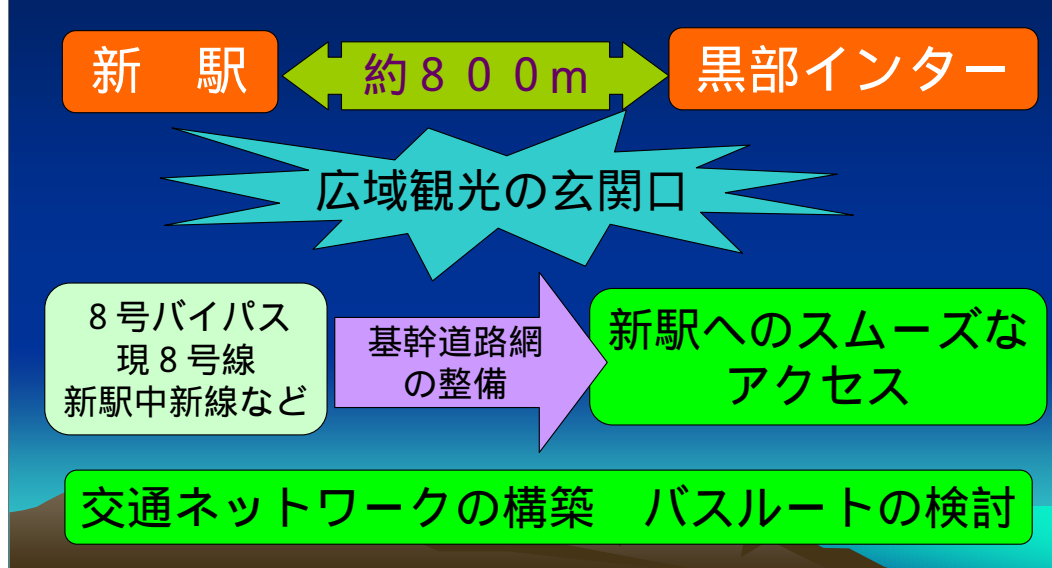
「来訪者を魅了する 観光と交流の拠点」を基本コンセプトに、新川地域の魅力が満喫できる駅周辺を創り出し、何度でも訪れたいとなるとともに、観光の玄関口・拠点として利用され、地域住民に愛される駅を目指そうとするものです。

また、駅舎については、清冽な水の流れる黒部峡谷をイメージし、透明感があり、周囲の森と水の風景に溶け込む駅舎、また、駅内部からは黒部の美しい風景が一望できる「見えない駅・魅せる駅」ということで、鉄道運輸機構において設計されることとなっております。

市としては、今後はこの計画に基づき、計画の実現に向けて検討していきたいと考えており、駅前広場・駐車場、多目的広場・交流プラザ、(仮称)地域観光ギャラリー等の整備を進めてまいりたいと考えております。

交流人口の増加による新たな活力の創造

公共交通ネットワークの充実



また、新駅は北陸高速自動車に隣接しており、黒部インターからわずか八百メートルという立地条件にあります。この特性を活かし、新駅を立山黒部アルペンルートをはじめとする広域観光の玄関口として一大拠点基地、発信基地としたいと考えております。

また、新幹線開通までに、国道8号線バイパスや新駅、現国道8号線、さらに国道8号線バイパスを結ぶ都市計画道路新駅中新線などの基幹道路網の整備を図り、新駅へスムーズにアクセスできるようにしていくことも大変重要であります。

また、交通ネットワークを構築し、新駅と市内の交通拠点、主要施設等や新川地域各地区を結ぶバスルートも検討していきたいと考えております。

交流人口の増加による新たな活力の創造
公共交通ネットワークの充実

新 駅

併 設

富山地方鉄道新駅

市内各地域とのアクセス向上

在来線とのネットワークの検討
平行在来線の民営化への対応

一方、鉄道関係では新駅に富山地方鉄道新駅を併設することにより、市内各地域とのアクセスを向上させるとともに、JR黒部駅周辺整備とあわせて旧黒部支線の復活案など在来線とのネットワークも検討していきたいと考えております。

また、地域住民の足を守るため平行在来線の民営化にも対応していくことも大変重要であると考えております。

交流人口の増加による新たな活力の創造

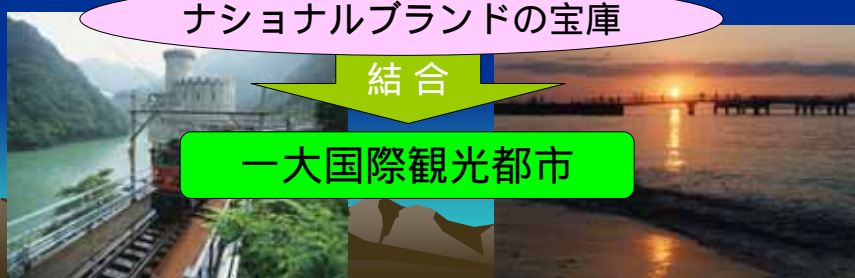
観光振興・広域観光への 取り組み

黒部峡谷・宇奈月温泉、生地の街並み、
YKK産業観光等
ヒスイ海岸、蜃気楼、ほたるいか

ナショナルブランドの宝庫

結合

一大国際観光都市



観光は二十一世紀のリーディング産業といわれております。

黒部市には黒部峡谷・宇奈月温泉、漁師町の風情が残る生地の街並み、黒部川扇状地湧水群、本年からの新たな試みとして、世界的企業Y Y K Kが産業観光をスタートさせるなど、さらに、県東部にはヒスイ海岸、蜃気楼、ホタルイカなどがあり、名水の里くるべは世界に誇れるナショナルブランドの宝庫であります。

これらの観光資源は、一つひとつでは国内や海外から観光客を誘致するには限りがありますが、それぞれが魅力アップを図るとともに、有機的に結合すれば、日本でも例を見ない一大国際観光都市になる可能性があります。その玄関口として新黒部駅が拠点となるような方策を実現したいと考えています。

交流人口の増加による新たな活力の創造
観光振興・広域観光への
取り組み

観光ボランティア活動

地域のすばらしさを再認識

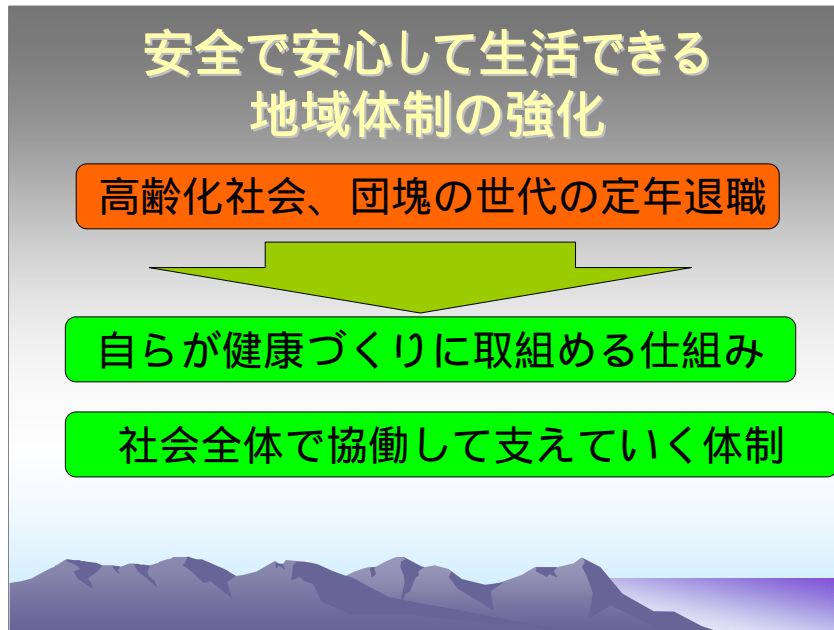
地域が一体となった取組みが地域発展の鍵

百年に一度の歴史的
転換期

また、「生地」まち歩きの観光ボランティア活動に見られるように、地域に住む人たちが自分たちの地域のすばらしさを再認識するとともに、訪れる観光客などが地域の魅力やすばらしさを体験実感できるよう地域が一体となって取組む体制づくりが地域発展の鍵になると考えています。

新たな幹線鉄道の駅ができるということは、駅のある地域だけでなく、市にとって百年に一度の歴史的転換期であります。

この大きなチャンスを活かしていくために、市民の皆さんからさまざまな意見や提言をお寄せいただきますようお願いいたします。

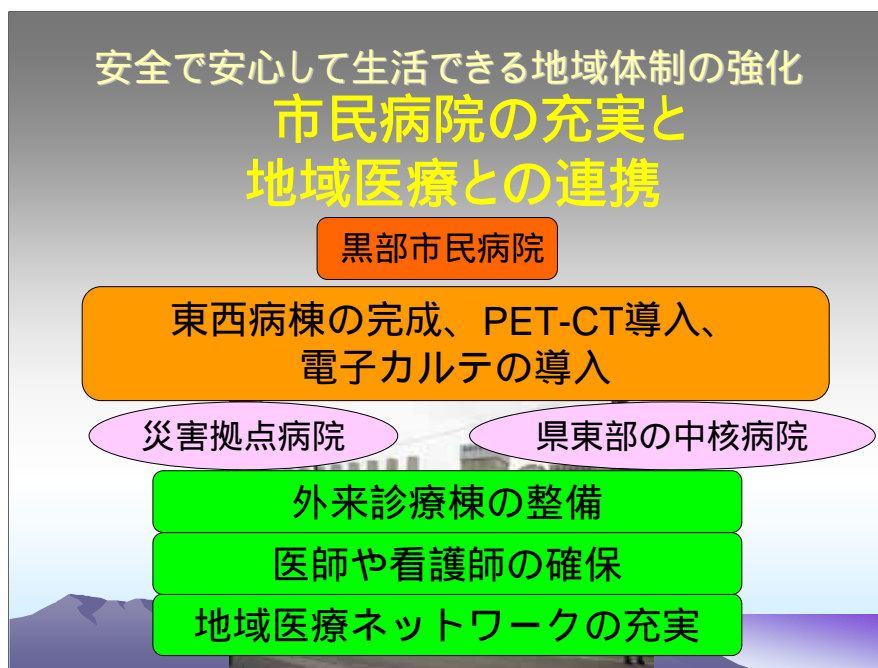


次にもう一点は、「安全で安心して生活できる地域体制の強化」です。本格的な高齢化社会を迎え、さらに、団塊の世代が定年退職し、新たな再スタートをする時代を迎えます。

こうした中で、市民一人ひとりがあらゆるライフスタイルの場面で、健康で自立し生きがいのある暮らしを送るためには、市民自らが健康づくりに取り組める仕組みと市民の保健・医療や福祉ニーズに社会全体で協働して支えていく体制の確立が必要であります。

また、特に、市民の皆さんとの連携による地域ぐるみの消防・防災体制や防犯体制を確立するとともに、地域を守る拠点となる施設を早急に整備、充実していく必要があります。

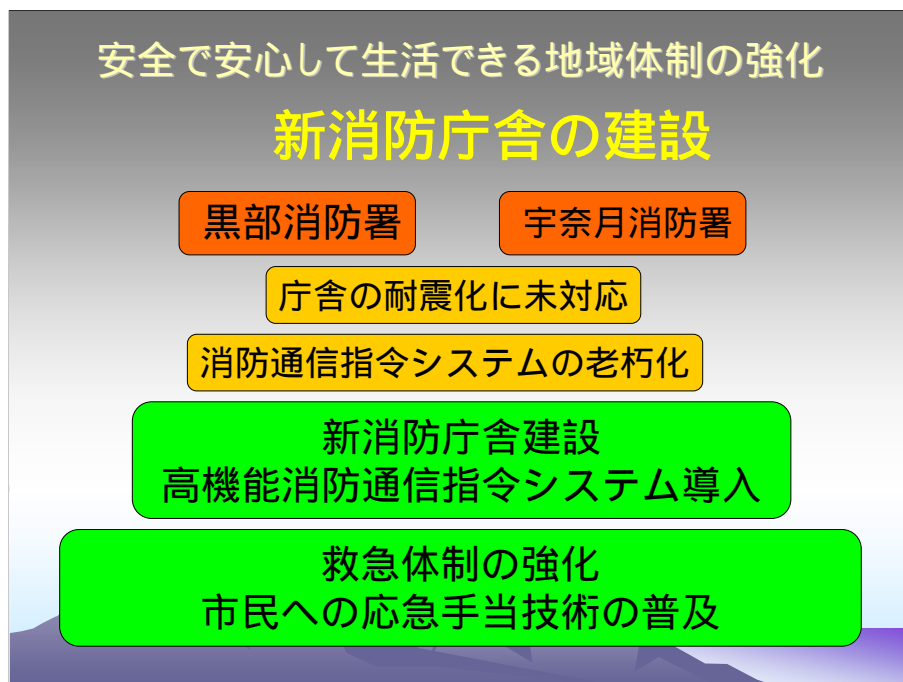
この具体的な取組みとして、次の3点から今後の展望を申し上げます。



はじめに怪我や病気等に対する黒部市民病院の充実及び地域医療との連携についてであります。

近年、黒部市民病院では東西病棟の増改築をはじめ、電子カルテや小さなガンを検出することができるPET-CTの導入など、病院施設及び医療設備の整備・充実を図り、県東部の中核病院として、また災害拠点病院として地域医療の充実・強化に取り組んでおります。

しかし、地域に根ざす病院として今後さらに発展していくためには、老朽化した外来診療棟の増改築をはじめ、新臨床研修医制度に伴う独自の研修プログラムによる医師・看護師の確保、電子カルテを利用した民間開業医との連携による地域医療ネットワークの充実を図るなど、救急や高度医療を担う地域の中核病院として、市民の期待に十分応えられるよう努力して参りたいと考えております。



次に、救急や火災等の備えとして、新消防庁舎の建設についてであります。

現在の消防体制は黒部消防署と宇奈月消防署に分かれ、24時間体制で市民の生命と財産を見守り、いざというときはいち早く現場に到着し、救急、消火活動ができるよう体制を整えております。

しかしながら、災害の出動・指令拠点となる消防庁舎が耐震化されておらず、また消防通信指令システムも老朽化してきており、今後の広域消防のあり方等を見定めた上で、新消防庁舎の建設や高機能な消防通信指令システムの導入を検討していく必要があります。

また、救急体制の強化、充実も必要であり、救急救命士を計画的に養成するとともに、救急講習を開催するなど、市民に応急手当技術を普及していきたいと考えております。

安全で安心して生活できる地域体制の強化
新庁舎の建設

ア. 効率的な行政運営

イ. 災害時の拠点機能

ウ. 新たなまちづくり構想
一体感醸成の手段

最後に新庁舎の建設についてであります。
新庁舎の建設については、必要性について3つの点から申し上げたいと思います。

安全で安心して生活できる地域体制の強化 新庁舎の建設

ア. 効率的な行政運営

分庁舎方式 黒部庁舎 宇奈月庁舎

住民票や税証明などどの庁舎でも取得可能

一方・・・

会議等のため職員が庁舎間の往復

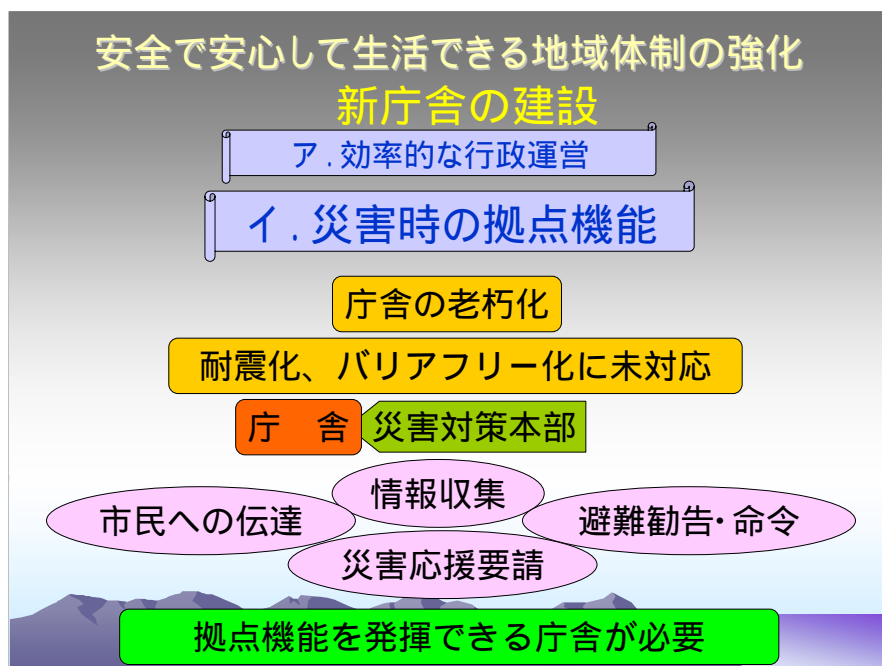
行政運営上
非効率

分庁舎方式の見直し

一点目は、ご存知のように、新市の事務所を黒部庁舎と宇奈月庁舎とする分庁舎方式としております。

市民の皆様からは、住民票や税証明などの窓口業務に関する不満等は耳にしておりませんが、会議や部課の協議などにおいては、多くの職員が庁舎間を往復している状況であり、行政運営については、かなり非効率的な点があると認識しております。

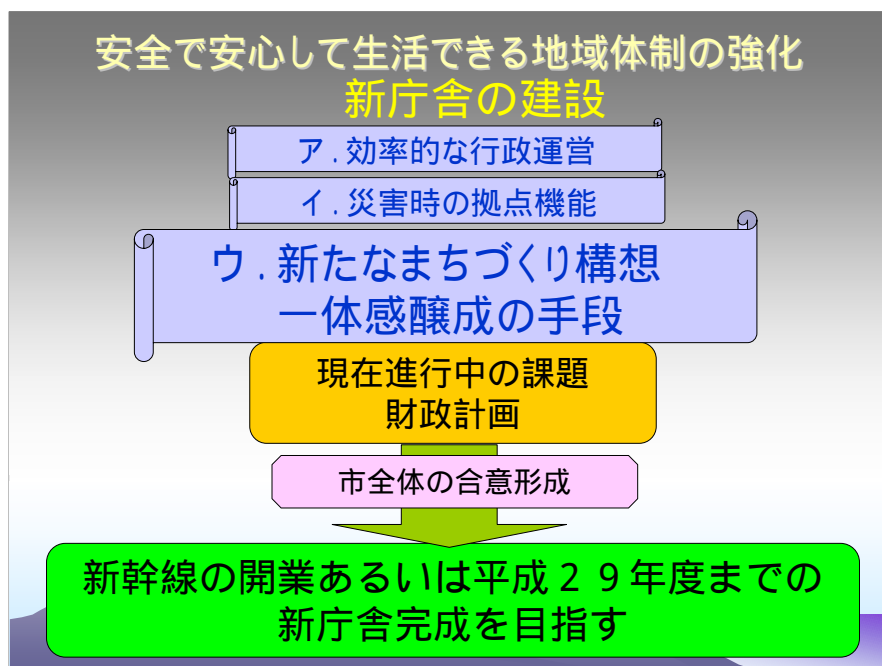
ちなみに、4月から9月までの半年間に延べ4,754人の職員が庁舎間を往復しております。



また、2点目は、現在の黒部庁舎、宇奈月庁舎ともに建設されてからかなりの年数が経過しており、耐震化、バリアフリー化等がされておらず、この対応が求められております。

特に庁舎は、災害発生時には災害対応拠点として、災害対策本部が設置され、災害・被災情報の収集、市民への伝達、避難勧告・避難指示や関係機関への災害応援要請を決定することとなります。

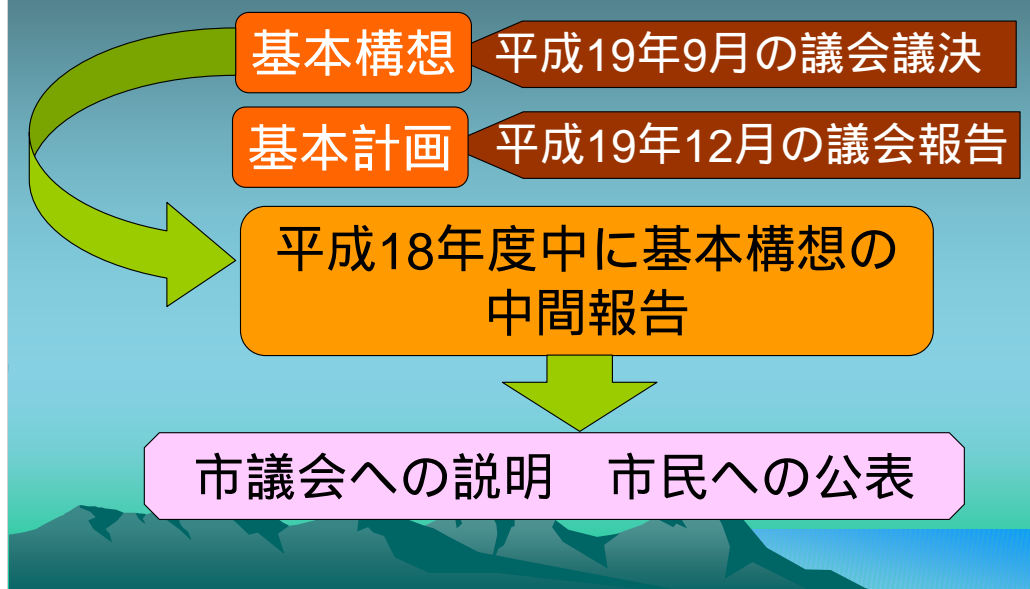
さらに、国民保護計画による危機管理体制への対応においても、住民の生命と財産を守る行政の責務を全うできるよう、地震等の災害で壊れない庁舎、災害時等の拠点機能を発揮できる庁舎が必要不可欠であります。



また、3点目は、新庁舎の建設は新たなまちづくり構想や市民の一体感醸成の手段としても大変重要な役割をもつものと考えております。

このような状況から、分庁舎方式の見直し、ひいては新庁舎建設については、新幹線関連事業をはじめとする現在進行中の課題や中長期の財政計画と照らし合わせながら、段階的に市全体の合意を形成しつつ、新幹線開業時あるいは総合振興計画の最終年度となる平成29年度を見据えて、新庁舎の完成をめざしていきたいと考えております。

総合振興計画策定予定



これまでテーマに関していくつかの項目について考え方を述べさせていただきましたが、この提起した内容、あるいは、地域固有の課題に関する内容であっても結構ですので、ご意見、ご提言を賜りますようお願いいたします。

なお、今後の総合振興計画策定については本日のタウンミーティングでのご意見を踏まえ、総合振興計画審議会での審議を経て、基本構想については来年九月の議会議決、基本計画については来年十二月の議会報告を目標に進めることにしております。

また、新市における施策等の目指すべき方向性をできるだけ早く市民に示すことができるよう、本年度中に基本構想中間報告という形で、市議会への説明と市民の皆さんへの公表を行う予定にしております。



提案は以上ですが、皆様からの忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。